

鬼ごっこのある町づくりを目指して

羽崎 貴雄

TAKAO, Hazaki

(一般社団法人鬼ごっこ協会)

はじめに

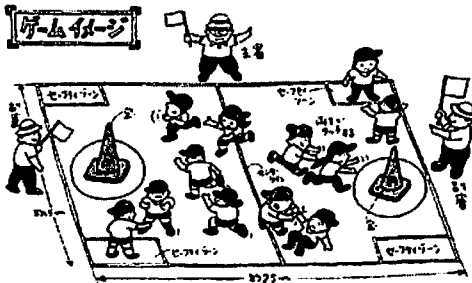
一般社団法人鬼ごっこ協会は鬼ごっこを通じて地域の絆づくりやコミュニティづくり、さらには子どもの健全育成を築いていくことを目標に日々の活動を送っています。鬼ごっこという誰もが共有できるものをうまく活かしながら、様々な問題を解決していくきっかけになればと思っています。

まだ設立4年目という若い法人ですが、これから、多くの経験をしっかりと積んでいき、多くの方たちの力になればと思っています。「たかが鬼ごっこ、されど鬼ごっこ」の精神を常に心に持っていきたいと思えます。

1. 鬼ごっこ協会の歴史

鬼ごっこ協会は2010年6月18日に設立されました。協会が設立される前はスポーツ鬼ごっこ普及推進委員会という任意団体で活動しており、当初は神奈川県相模原市で学童や児童館などでスポーツ鬼ごっこなどの鬼ごっこを子どもたちに教えていました。そこから半年近く経ったのち一般社団法人鬼ごっこ協会と名前を変更し、活動の幅を全国へと広げていきました。そして、2011年3月11日の東日本大震災のその1週間後に、鬼ごっこ協会の事務局を現在の世田谷区桜上水に移すことになりました。また、東日本大震災以降、地域での絆づくりやコミュニティづくりに関しての鬼ごっこ協会への依頼が増えていきました。現在では、38都道府県130を超える市町村で鬼ごっこのイベントや大会、さらには指導者たちがいて、活動を各地で行っています。

2012年からは鬼ごっこ協会公認指導者審判ライセンスも行うことになり、全国各地に公認指導員や審判がおり、それに伴い、スポーツ鬼ごっこの全国大会も昨年第一回が行われました。現在は国際大会も視野に入ってきています。



(スポーツ鬼ごっこの図)

- ・相手の陣地の宝を取り合う。
- ・相手の陣地に入ったら、宝を守ってる人に両手でタッチされたら自陣に戻る。
- ・相手陣地のセーフティゾーンに入ったらタッチされない。
- ・宝の周りのサークルには守ってる人は入ってはいけない。

2. 組織

鬼ごっこ協会の組織は本部があり、そのほかに各支部があります。支部は市町村単位と都道府県単位、さらには関東や関西などのブロック単位での支部があります。現在は市町村と都道府県単位での支部があります。支部を担っている人は様々な職種の方たちがいます。子ども会や町内会が行う場合もあれば、企業が行うこともあります。NPO等の非営利団体なども担っています。

また、その支部の方たちは鬼ごっこ協会の公式ライセンスを所持した者たちで成り立っており、鬼ごっこ協会が伝えたいことや、目指していくものを共有した仲間たちがそれぞれの地域で支部として日本、さらには世界の未来のため、また、協会の発展のために日々活動をしています。今後は世界にも支部を作っていく予定です。

鬼ごっこ協会においてはこの支部というものの役割が非常に大切になってきます。地域での活動は基本的に地域が主体となって行うことが大切です。

3. 事業内容

鬼ごっこ協会の活動は大きく分けて以下の4つがあります。

- 1 イベントや大会
- 2 研修
- 3 教材やグッズの販売
- 4 鬼ごっこに関する研究や調査

1に関しては地域でのイベントや全国的なものもあります。その種類も様々で、開催する団体や対象によって変わってきます。開催の行い方も協会が主催をするというだけではなく、各団体との連携によって行います。各々が抱えている問題や各々が行いたい内容に応じて鬼ごっこ協会として一番いいと思えるものを提案し、それを共同で作り上げるということになっています。スポーツ鬼ごっこイベントや大会以外での面白い例としては、鬼ごっこ婚活、防災鬼ごっこ、自然の宝探し鬼ごっこなどがあります。

前述のとおり、行う地域や年齢、性別などに合わせて、その都度その都度変えていくといったことを徹底して行っています。従来の概念にとらわれずに参加者が楽しいと思えるものをそのたびに考えています。



(左は相模原市津久井で行われた戦国陣取り物語スポーツ鬼ごっこ大会の写真
右はスポーツ鬼ごっこ全国大会の写真)

2に関しては鬼ごっこでの企業研修や社員旅行、保育園や幼稚園、学校の先生向けの研修などを行っています。企業研修ではチームワークを学ぶ研修や、コミュニケーション能力を養う研修、また、企業の管理者向けのリーダー研修、内定者研修など、多岐にわたる研修内容を行っています。実施前と実施後で研修を受けた方たちは見るからに変化が出て非常に効果的な研修だと研修担当者から声をいただいています。

学校などの先生向けの研修は鬼ごっこを使った子どもの遊びを教えています。鬼ごっこと言っても先生たちは多くの鬼ごっこを知らないケースも多く、子ども達に対する遊びを満足に提供できないケースもあり、そういった問題に対して数多くある鬼ごっこの中から、ピックアップして、普段の遊びで使えて楽しいものを教えています。



(写真は鬼ごっこを用いた企業研修での写真)

3に関しては現在、スポーツ鬼ごっこ関連グッズの作成や、鬼ごっこのテキスト制作等を行っています。特にスポーツ鬼ごっこ関連グッズは需要が高まっており、早急にそろえていかなければならない課題となっております。現在、いくつかの市町村などでは、小学校でスポーツ鬼ごっこが体育の授業で行われていることもあり、今後、この事業に関しては鬼ごっこ協会として力を入れて行わなければならない事業になってきます。

また、将来のより高度なスポーツとしてのスポーツ鬼ごっこが広まった時には、スポーツ鬼ごっこの専用シューズや専用ウェアなども作られるようになってくると思います。

そのため、企業や行政との連携を深めつつ進めていきたいと思っています。

4に関しては鬼ごっこの文化的側面に関して鬼ごっこ協会として行っている事業です。鬼ごっこには非常に文化的な側面があります。しかし、ほとんどの日本人は文化的な側面ではなく、鬼ごっこという遊びとしての認識しかないことがほとんどだと思います。その文化的側面を理解し、普及することで、ただ単に遊びというだけではなく、日本人としての価値観の中にもしっかりと入っていくことができると考えています。



「ことろことろ」を表現した絵画と写真（出典：『骨董集』1814・1815）

4. 普及

鬼ごっこ協会が設立されて3年半近くがたち、イベントや大会の参加人数は延べ8万人くらいに上っています。最初の一年目はなかなか参加数も多くない日々が続き、苦勞することも多々ありました。チラシを自らポスティングなどもしたりする日々もありました。しかし、そのような中で、地域の方たちとのつながりができ、ロコミという一番大きな力を手に入れていくことができました。

最初の一年目はどこに行っても鬼ごっこ協会の存在を知らない方達ばかりで、一からすべてを説明する日々でした。多くの方は所詮鬼ごっこであるという見方をする方たちばかりで、なかなか話を聞いてくれない日々もありました。地道に一人一人をとにかく説得する気持ちで日々の活動をしていました。

現在の礎はこの時に築かれたことは間違いないと思っています。

2年目になり、少しずつ浸透していった地域もあり、そのような地域では多くの参加者ができてきました。リピーター率も非常に高く、一度来てくださった方は2度目をほとんど来てくれるというのもありがたい結果です。全国的にも少しずつ広がっていき、約半数近くの都道府県にまで広げることができました。

3年目になり、それまでの実績や、ロコミなどにより、多くの地域でのイベントの開催が行われてきました。大会も3年連続して行う地域も出てきて、より浸透している地域もあります。普及した都道府県も35都道府県に上り、100を超える市町村での実施をしてきました。全国大会も参加者は500名、観客を含めると3000名近くの方たちが来て盛大に行うことができました。

4年目の今年はさらに多くの地域での普及になっており、だんだん、浸透していっていることが実感できてくる程度にまでなってきました。スポーツ鬼ごっこで街づくりをしていきたいという町も出てきており、より一層の広がりを見せています。普及した都道府県は38都道府県の130市町村にも上っています。5年目には全都道府県にまで普及をしたいと考えており、気を引き締めて普及に努めていきたいと思っています。

5. 受賞歴

- ・人間力大賞 会頭特別賞
- ・神奈川県力大賞
- ・西武信用金庫助成金
- ・GREEN TV 賞
- ・ソーシャルビジネスグランプリ

この中で、人間力大賞を受賞したことが現在の鬼ごっこ協会には非常に大きかったといえます。まだ協会が設立して間もない時期での受賞で、そのあとの普及には大変大きな実績になりました。日本青年会議所が主催の賞でもあり、全国にある青年会議所にも知られることになり、全国の各地域に広がっていくのには効果があり、地域でのイベントの基礎はこの賞がきっかけでもあります。

最近ではソーシャルビジネスグランプリという社会企業家に対して贈られる賞も受賞することができ、だんだんとその活動が認められてきたことを実感するきっかけにもなりました。ソーシャルビジネスという、社会に貢献しながらビジネスを行うといったことに対して、より一層の力を入れていきたいと思っています。

6. メディア掲載

メディア掲載はテレビ、新聞、ラジオ、雑誌、インターネットメディアなどを合わせると、3年間で200近くの媒体で扱われています。

テレビはNHKや民放キー局、さらには地方ローカルテレビなどにも多く扱われてきました。特に最近では地域大会には地域ローカルテレビ局はほとんどといってもいいほど来てくださるようになり、非常にいい状況だといえます。これは地域新聞や地域ラジオにも同じことが言え、地域での活動の理解が徐々にですが出てきていることの証明のような気がします。

このほかに、面白い取り上げられ方として例を挙げると、パズル雑誌に載ったりですとか、少年漫画雑誌に取り上げられたりとその取り上げられ方自体が非常に多岐にわたっています。

インターネットのメディアにも多く取り上げられており、インターネットの掲示板などでも拡散したりして、多くの人目に触れられるきっかけになっています。インターネットの掲示板などは基本的にネガティブな書き込みが多い中、鬼ごっこ協会や鬼ごっこに関しての投稿に関しては非常にポジティブな投稿が多いというのも特徴の一つです。これは鬼ごっこに対する共感性が高いといえるのではないかと思います。

今後も多くのメディアにリリースを出しながらメディアをうまく活用し、スポーツ鬼ごっこの普及や鬼ごっこ協会の活動のことをより多くの人に知ってもらえるきっかけになればと思います。

7. ライセンス研修

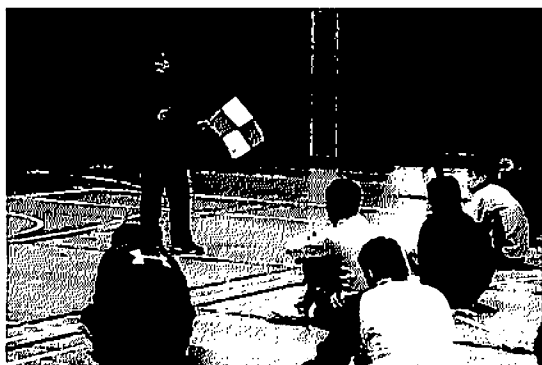
鬼ごっこ協会ではスポーツ鬼ごっこの指導者や審判に対してのライセンス研修というものを実施しています。3級、2級、1級、S級ライセンスがあります。鬼ごっこでなぜライセンスが必要かという方もいると思いますが、鬼ごっこだからこそ、しっかりとした指導者たちが普及し、広めていってもらいたいと強く思っているからです。

現在、鬼ごっこ協会の公式ライセンスを持っている人口は約500名で、全国30を超える都道府県に在籍しています。

ライセンスを持っている方たちの職業に関しましても、非常にさまざまで、学校の先生やスポーツクラブのトレーナーやコーチはもちろんのこと、行政関係者や、お医者さん、会社経営者、政治家、さらには主婦の方などもいて、鬼ごっこの役割というもの大きいことがわかります。

現在は2級ライセンス保持者が最高ですが、来年以降、1級も行おうと思っています。

ライセンス保持者が増えてくることで、スポーツ鬼ごっこの普及にもつながり、子どもの遊んだりする習慣作りにもなっていくと思います。今後は海外でもライセンス研修を行い、海外にも指導者を増やしていき、スポーツ鬼ごっこの普及をどんどん進めていきたいと思っています。



指導員・審判員へ向けたスポーツ鬼ごっこの講習会

8. 被災地支援

鬼ごっこ協会では被災地支援も行っており、何度も被災地に訪れイベントや研修会、講演会などを行ってきました。震災でコミュニティなどが希薄になってしまった地域での需要が非常に高く、コミュニティづくりの一環としての活動として行うことが増えてきました。鬼ごっこのイベントをし、そこに様々な世代などが集まることで新たなコミュニティづくりをしていく姿を多く見てきました。

また、震災以降、運動不足が顕著な福島県などでは、室内でもできるスポーツ鬼ごっこなどを取り入れて、子どもの運動する機会というのを作ってきました。鬼ごっこをすることで、子ども達の運動機会を作り、楽しく遊ぶことで自然と体を動かします。外で遊べな

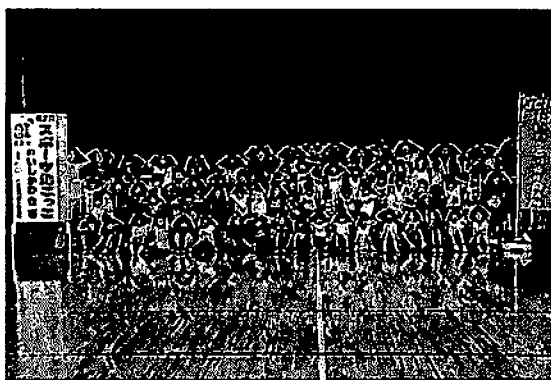
い子どもにとっては非常に大切な時間になっています。室内でも体を動かすということが子供のストレスなどを軽減することにもつながっています。

今後も、被災地に対しての活動を進めていきたいと思えます。そうすることによって、被災地の子どもたちの元気や多くの笑顔がふえ被災地の未来への力になっていくと思えます。

鬼ごっこ協会として、被災地での全国大会も将来行えればよいと思っています。



岩手県北上市



福島県石川町

9. 将来の目標

将来の目標は2つあります。

- 1、鬼ごっこのある町づくり
- 2、スポーツ鬼ごっこのオリンピック正式種目化 (Sports for all)

これらが鬼ごっこ協会として将来目標にしていることです。これらが達成することで、鬼ごっこ協会が果たすべき役割というもの達成されると思っています。

1に関しては、鬼ごっこがごく自然とある街づくりを目指すというものです。鬼ごっこは現在では昔のように当たり前に行われているわけではありません。仮に行っていても、鬼ごっこの種類は少なく、やってもひとり鬼や氷鬼くらいです。また、公園などで行っているのを見かけるのはほとんどなくなっているのが現状だと思います。

その原因として挙げられるのは、以下の理由として挙げられると思えます。

- ・子どもだけで外で遊ぶということは現代社会では危険が伴うということ。
- ・ゲームが一般化し、室内外問わずゲームを行う習慣がある。
- ・子ども、さらには親が外遊びの種類を知らない。
- ・様々な習い事で遊ぶ時間自体が少なくなっている。

など、このほかも含めて多くの原因があります。しかし、外で遊ばなくなる影響も子どもの将来を考えると多くある中、やはり、公園などで、子どもが鬼ごっこなどをして遊んでいる姿が当たり前の社会を目指していきたいと思えます。そうなった町はどのような街かといいますと、安心して遊べる環境であり、健康に運動ができる環境、地域がそれを見守る環境といったことができていく街であるともいえます。また、子どもが鬼ごっこをして、

元気に走り回っているときというのは非常に表情豊かで笑顔あふれる表情をしています。子どもの笑顔が多いということは良い社会の代名詞でもあると思います。鬼ごっこのある町というのは鬼ごっこを通じて、地域がよりよい社会になっていくことを意味しています。

もう一方のスポーツ鬼ごっこをオリンピックの正式種目化を目指すというのは、鬼ごっこ協会ではスポーツとしてスポーツ鬼ごっこを広く世界に広める活動です。これは鬼ごっこという広い分野ではなく、スポーツ鬼ごっこという競技でオリンピックの正式種目化を目指すというものです。鬼ごっこ自体は全世界共通の子供のころの遊びです。それを鬼ごっこ協会の会長が改良して作られたのがスポーツ鬼ごっこ。この日本発祥の鬼ごっこをグローバルスタンダードのスポーツにして、日本の文化的な側面も同時に伝えていけたらと思います。道具もほとんどいらず、世界中のどこの地域でもできるという最大のメリットがあります。これこそが鬼ごっこ協会が目指している”Sports for all”というすべての人のためにスポーツがあるという概念です。また、オリンピック種目になるということは世界中でスポーツ鬼ごっこが行われているということと同じ意味です。世界中の人に笑顔になってもらえるために、この目標をかなえたいと強く願っています。

おわりに

鬼ごっこ協会は鬼ごっこのある町づくりや”Sports for all”といったことを目指して活動をしています。鬼ごっこという当たり前すぎる遊びが現代社会には切に必要になっている時代とも言えます。そんな時代だからこそ、地域社会がしっかりと子どもの成長や未来というものにしっかりと向き合い、どうしていくことが大切かを考えていく必要があると思います。そのきっかけに鬼ごっこ協会の活動がなってくれば、それが何よりもうれしいことです。鬼ごっこを通じて、地域の人が問題意識を持ち、それを解決していく。これこそが鬼ごっこ協会が望む地域社会です。地域の人たちが自ら解決していくことが大事だと思います。そのお手伝いをするのが鬼ごっこ協会の役割です。これは国が変わっても同じことです。日本に限らず、全世界でこのような社会になっていければ最高です。鬼ごっこのある町づくりを目指して日々邁進していきます。